英語多読のその次は…

磯部　達彦

1．多読指導を終えた生徒は何を得るか？

高校教員時代におこなっていた多読指導に関して，多読指導修了後の英語学習について考えてみたい．

多読を続けることによって英語読解力が身につくのは言うまでもないが，読解力を身につけるために本を読むというのはもちろん本末転倒で，本が読めるために読解力をつけるというのが本当だろう．多読指導はあくまでもプログラムなので，原文を書き換えた graded readers，またはハリーポッターなどに代表される児童文学を，読解力をつけるための「教材」にしている．しかし，名作古典の書き直しでは本来の英語表現を味わうことはできないし，児童文学はいずれ内容に満足できなくなる年齢に達する日が来る．あえて言えば，いつまでも「教材」ばかり読んでいてもしょうがない．

以前は，多読指導によって「英文を読むのが苦にならなくなる」，「辞書に頼らずに英文が読めるようになる」という効果が指摘されたが，現在では，Kindle などで読書すれば辞書を引く手間はほとんど不要で，Audible なら「読み聞かせ」もしてくれる．「苦にせず，辞書に頼らず」英文を読むことなら，AI によってある程度可能になっている．

では，この後の課題は何だろう．結局は，身につけた英語読解力で何をするかではないだろうか．

2．原文にある表現を見つけて楽しむ

be accustomed to という熟語は be used to *doing* の言い換えとして教えることが多いが，be used to とは違って to の後に動詞の原形がくることもある．このことを授業で知識として教わるより，読書中に下のような文章と巡り合い，自分で発見した時の方が英語の楽しさは倍増するだろう．

Now you were accustomed <u>to see</u> the bare trees against the sky ...（下線は筆者）

— *A Moveable Feast,* Ernest Hemingway

多読で英語長文が読めるようになった生徒には，その力で英語表現を発見する楽しみを知ってほしいと思う．面白い英語表現は大学入試や英語力増強の直接的な役には立たないかもしれないが，それが本来の英語を読む楽しさだと思うからだ．

ここで，原書から見つけた面白そうな表現を，例文を挙げていくつか紹介したい．出典は Anthony Horowitz の *Magpie Murders*, *Moonflower Murders,* Richard Osman の *The Thursday Murder Club* など，新しいイギリスのミステリーからである．原書のページ数は多いが英語の難易度はそれほど高くないので，多読修了後の生徒にはぜひ，通読をすすめてみてはどうだろう．

・in two shakes of a lamb's tail

lamb（子羊）が尻尾を 2 回振る時間など極めて短いだろうと感じられることから，「すぐに，あっという間に」，“very soon or very quickly” という意味で使われる．YouTube を探すと実際に lamb が尻尾を振っている動画も挙げられている．

例：I'll be back in two shakes of a lamb's tail. 〈*Collins*〉「すぐに戻ってきますね．」

・a different kettle of fish

この kettle はお湯を沸かすヤカンのことではなく，魚をまるごと調理するための fish kettle という伝統的な鍋を指す（a fish kettle : a long deep dish used for cooking whole fish 〈*LDOCE*〉）．そして，この表現は「全く別の問題」，“to be completely different from something or someone else that has been talked about” という意味で使われる．高校教員の時，一緒に仕事をしていたカナダ人の ALT に話してみると，この表現は聞いたことはあるが自分で使ったことはないという返事だった．

例：Having knowledge is one thing but being able to communicate it to others is another kettle of fish.〈*Cambridge Dictionary*〉「知っていることと，それを他人に伝えられることは別の問題です.」

・the last nail in the coffin

ミステリーにでてくる表現としては，とても似つかわしい感じがする.「棺桶を閉じるための最後の釘」という意味だが，棺桶の蓋を閉じる釘の最後の一本を打ち込んだら，後は土の下に埋めるだけということになる.「〜にとどめを刺すもの，〜の破滅を決定づけるもの，〜への最後の一撃」，“an event that causes the failure of something that had already started to fail” という意味で使われる.

例：This latest evidence could be the final nail in the coffin for Jackson's case.〈*Cambridge Dictionary*〉「この最新の証拠はジャクソン事件へのとどめの一撃となりうる」

・a little cog in a big machine

日本語でも「組織の歯車」などという表現があるが，英語でも同じで「大組織や大企業の中でつまらない役割を担う人」，“a member of a large organization whose job, although necessary, makes them feel as if they are not important” という意味を表す比喩として使う.

例：I decided to set up my own business because I was tired of just being a cog in a machine.〈*Cambridge Advanced Learner's Dictionary & Thesaurus*〉「会社(機械)の歯車でしかないことに嫌気がさしたので，自分で起業することに決めた.」

・There are other pebbles on the shore.

これは「海岸には他にも小石はある」から，「(その程度のものなら)行くところへ行けば，同じようなものがいくらでもある」という意味の比喩として使われる.

その他，**Hope for the best, prepare for the worst.**「最善を望んでいるが，最悪にも備えておく」などは語呂もよくて，使いやすい phrase だろう.

３．どんな原書を読んでみるか？

学習者のために編纂された英語本と，ネイティブが読むために書かれた原書の間をつなぐような本はないかといつも探しているが，たぶん同じような思いを抱いておられる先生方は多いのではないだろうか．ここで，ある程度英語力がついた生徒たちが挑戦できる本格的な小説を 3 冊ご紹介したい．英語表現の面白さも，内容も十分に楽しめる作品だと思う．自分が面白いと思う表現を探しながら読んでみるのもよいだろう．

・*Big Mouth & Ugly Girl* (2002)

The Corn Maiden and Other Nightmares (2011)や，*Jack of Spades* (2015) などでも知られるアメリカ人作家，Joyce Carol Oates (1938-)のヤング・アダルト向けの小説．Oates は Princeton University の教授でもあり，Rosamond Smith, Lauren Kelly のペンネームでミステリー小説も執筆している．たくさんの文学賞を受賞しており，近年はノーベル文学賞候補として名前が挙げられることも多い．

ストーリー　自分を “big mouth” と呼んでいる Rocky River High School の生徒 Matt Donaghy は，授業中に突然侵入してきた 2 人の警察官によって，学校爆破の疑いで警察署に連行されてしまう．爆破事件などとは関わりたくない友人たちが無責任な噂を流すなか，Ursula Riggs は周りの空気など読もうとせず，自分の知っている事実を警察に話そうと決心する．彼女は Matt とは知り合い程度だが，自分を “ugly girl” と呼ぶことで自分を鼓舞し，思ったことを率直に口にする勇気を持っている．誰が Matt を罠にはめたのか？その裏にある企ては？ Matt の味方になってくれるのは誰？アメリカ社会に今でも存在する偏見や，現代の高校生の人づきあいの距離感など，さまざまな現在を見せてくれる小説である．

・*Hag-Seed* (2016)

The Handmaid's Tale (1985) や *The Testaments* (2019) など多くの作品で知られているカナダ人作家，Margaret Atwood (1939-) の小説．Atwood は詩集を含めて 60 冊以上を出版しており，

世界15か国以上で翻訳され，ヨーロッパでも多数の文学賞を受賞している．The University of British Columbia では英文学を教えている．この作品は現代作家が古典であるシェイクスピア作品を現代版に作り直すという the Hogarth Shakespeare project の一環として書かれ，Atwood は *The Tempest* を選択している．

ストーリー　Shakespeare の *The Tempest* 上演に向けて準備をしていた演出家 Felix は，部下の Tony と文化遺産省の Sal の奸計によって失職してしまう．地方の小さな村の刑務所で受刑者たちに演劇を教える職を得た Felix は，前職を失ってから12年後，刑務所で上演する芝居の演目に *The Tempest* を選び，それを観に来ることになった2人への復讐準備を始める．小説に劇中劇をはさみ，*The Tempest* を読んだことのない読者も楽しめ，読後はオリジナルの Shakespeare の *The Tempest* を読んでみようと思わせてくれる．

最後に，英語圏以外から英語翻訳本も紹介したい．

・*The Scandal*（2017）

スウェーデン人作家 Fredrik Backman（1981- ）の作品で，イギリス版は *The Scandal*，アメリカ版は *Beartown* というタイトルになっている．

Backman は，スウェーデンのコラムニスト，ブロガー兼小説家で，*A Man Called Ove*（2012）の著者で，ベストセラー作家である．

ちなみに，*A Man Called Ove* は2015年にスウェーデンで映画化され(邦題『幸せなひとりぼっち』)，その後，2022年には *A Man Called Otto* というタイトル(邦題『オットーという男』)で，トム・ハンクス主演でハリウッドリメイクされた．

ストーリー　スウェーデンの大きな森の中の小さな町 Beartown にある強豪アイスホッケー・ジュニア・チームの物語．このチームで活躍すると北米の NHL(ナショナル・ホッケー・リーグ)からスカウトされ，プロ選手への道が開ける．貧乏な家庭にとっては貧困から抜け出す唯一の方法であり，チーム経営者はホッケー専門学校を外部から誘致し，企業からの出資とビジネスの拡大を狙っている．そのためにチームは是が非でも優勝する必要があった．そして，準優勝したチームの勝利を祝うパーティーで，酒に酔った花形選手がとんでもない事件を引き起こしてしまう．この事件を知った町の住民たちは，町の有力者である加害者の花形選手を守ろうとし，被害者とその両親を町の除け者にしてゆく．そのような雰囲気の中で，さらに新たな事件が起こる．個人よりもチームを優先しようとする経営者，町が経済的に潤うために少年スポーツを利用しようとする大人たちなどが青年たちの目を通して描かれていく．

もちろん英語で読める面白い小説は山ほどあるので，多読修了生には身につけた力を駆使して，英語を通してしか見えない世界があることを知り，もっと自分の世界を広げていってくれることを願ってやまない．

参考文献

磯部達彦(1998).「多読指導の実際と効果」『京都教育大学附属高等学校研究紀要第64号』p. 32

Hemingway, Ernest. (1994). *A Moveable Feast.* Arrow Books

Horowitz, Anthony. (2016). *Magpie Murders.* Orion Books

Horowitz, Anthony. (2020). *Moonflower Murders.* Penguin Random House UK

Osman, Richard. (2021). *The Thursday Murder Club.* Penguin

Oates, Joyce Carol. (2002). *Big Mouth & Ugly Girl.* Harper Collins Children's Books

Atwood, Margaret. (2016). *Hag-Seed.* Hogarth

Backman, Frederic. translated by Neil Smith (2017). *The Scandal.* Penguin Books

（京都教育大学附属高等学校 元教諭・
京都教育大学 非常勤講師）